

地域計画特論(2)

仏教思想の基本的概念(公共計画思想の基本)

■日本の精神性と仏教

■仏教の成立

■フツタの悟り

■四諦・十二因縁・八正道

■仏教思想の整理



■日本の精神性と仏教

- ・年末年始、連休以外に、彼岸(春分の日、秋分の日)、お盆などの年中行事は仏教に関連するものが多い。
- ・寺院、墓地に詣でる。葬儀などの儀式を行う。三十三箇所めぐりなどの仏教思想にもとづくイベント。
- ・観光地、建造物、美術工芸品、文化財などの多数は仏教と関係がある。
- ・現在でも市井に地藏菩薩があり、町内の管理になっている(地藏盆があるということもある)。
- ・日常日本語のなかにも仏教起源のものが多数ある。

■深層文化としての仏教

「四苦八苦」「因縁」「地獄」「極楽」「餓鬼」「畜生」「有頂天」
「金輪際」「娑婆」「方便」「般若」「断末摩」「奈落」「往生」・・・
その他多数

仏教は日本の文化の精神性(深層文化)を形成していると考えられる。

仏教の現代的意義はあるのかを検討する!

- ・仏教の成立過程を考える(輪廻とウパニシャッド哲学)
- ・キリスト教的西洋科学論との比較から理解する
- ・仏教の基本的概念を整理する

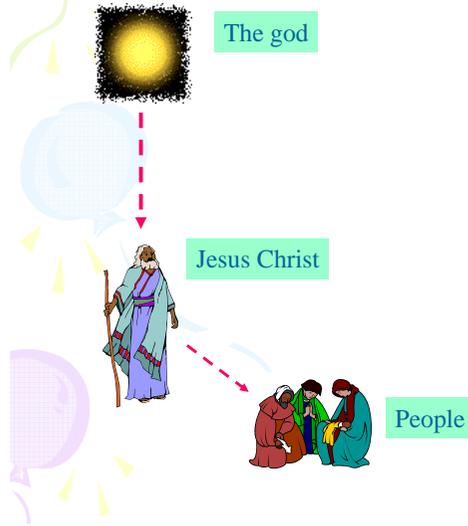
■仏教についての疑問

いろいろあると思われる素朴な疑問:

- ・キリスト教などと、結局は宗教なので一緒ではないのか?
- ・どうして、いろいろな「仏さん」(仏像)があるのか?
- ・いったい「お経」には、何がかいてあるのか?
- ・極楽と地獄はどんな関係があるのか?
- ・死後の世界は仏教ではどうなっているのか?
- ・仏教の思想に現代的意味があるのか?

■キリスト教のイメージ(復習:一神教の思想)

The Christianity system

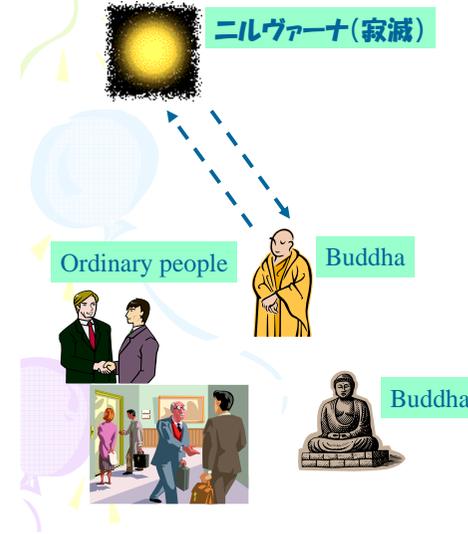


唯一神(ユダヤ教:ヤーヴェ)
 神は預言者を通じて、ことばや意思を伝える
 神が天地創造を行った。
 7日目に休息した。(安息日)

ポイント **原罪**
 神は全知全能で、人間を超越した存在である。
 人間は不完全で罪深い存在である。
 人間は神に救済を求め、神はそれにこたえて人間との間に契約を結んだ。
 人間は神にはなれない(当然)。

■仏教の基本イメージ

The Buddhism system



「フツダ」というのは「目覚めたもの」「最高の真理を悟ったもの」
 ゴータマ・シタールダは仏教の創始者であり、覚者となった後、フツダとよばれた。

ポイント
 絶対神は存在しない
 だれでも「フツダ」になることができる
 これまで「フツダ」の教えが經典に書かれている。
 すでにたくさんの「フツダ」がいる。

■古代インドの思想

アーリア人:インド大陸の西北部から侵入。ガンジス川流域まで及んでいた。(BC1500ごろ~BC500ごろ)
言語:サンスクリット語、**宗教:**バラモン教
 ⇒のちにヒンズー教となる

社会的背景:カースト制(四姓制度)
バラモン:司祭階級
クシャトリア:貴族・武士階級
ヴァイシャ:庶民
シュードラ:奴隷

バラモン教の聖典 ⇒ 「ヴェーダ」(4書がある)
 ⇒ 「リグ=ヴェーダ」(人生と自然)
 「ヴェーダ」の第4部は「ウパニシャッド」(奥義書)

■ウパニシャッド哲学

人間は死後どうなるのか?

1. 輪廻: 死後あの世にいき、再びこの世に生まれる。この過程は無限に繰り返される。つまり苦をもつ人生の繰り返しとなる。
2. カルマ(業): 前世の行為(業)の結果、幸不幸が決まる。生涯の行為の結果として死後の運命が定められる。
3. 祖霊の道: 大部分の人は死後、煙とともに祖霊の世界に達する。大気・風・雨とともに植物の中に摂取される、食物となって再生する。
4. 神々の道: 選ばれた人のみ神々の世界に達する。絶対者ブラフマンと合体する。(バラモンだけが輪廻から脱出できる)
5. ブラフマン(梵)とアートマン(自我を表す)は本来同一である。(解脱の境地: 梵我一致)

⇒自業自得による苦の輪廻 ⇒現世否定のあきらめの感情

■フツダの生涯



ゴータマ=シッダールタ
(BC463?~BC383?)

- ・釈迦族(シャーキャ族)の王子として生まれる。
- ・16歳で結婚し、一子(男)を得る。
- ・29歳のときいっさいを放棄して出家。
- ・35歳ごろ「縁起説」を洞察し、フツダ(覚者)となる。
- ・45年にわたる長い旅の末に入滅する(80歳)。
最後の旅、沙羅双樹(サーラ)にて

■フツダの最初の説法

初転法輪・・・鹿野苑(ろくやおん):ペナレス市北サールナート

二つの極端:

- (1)官能の導くまま官能的快樂にふけることである。これは、卑しく、低級で、愚かしく、下等で、無益なことである
- (2)自分で自分を苦しめることを夢中になることである。これは苦しいばかりであり、下等で、無益なことである。

⇒禁欲主義と快樂主義を捨て去って、「中道」をとること。

- ・中間という意味ではない。
- ・固定的立場に立たないという、バランスのとれた欲望の処理

■フツダの思想(四聖諦)

人生は苦である(苦の認識が人生に目覚める第一歩)



四苦八苦 生・老・病・死
愛別離苦・怨憎会苦・求不得苦・五陰盛苦

四聖諦

苦諦 人生は苦であるという真理

「あきらめる」ではなく
明らかにすること
審らかにすること

集諦 苦悩の原因は、人間の欲望や愛着の心にある

滅諦 苦悩の原因の煩悩がなくなった状態(涅槃)

道諦 涅槃に到達するための具体的な実践方法
(八正道)

■苦の原因

人間の持つ食欲、色欲(性欲)、睡眠欲、財産欲、名譽欲が歡樂の根本であると妄信して、これに愛着し、執着するところが「苦の原因」

自分の立場や集団の立場を絶対化し、そこからものを見ると、どうしても自分の都合のよいようにしか、ものが見えてこない。このように独断的にものをみたり、考えたりすることを「見」という(悪見、先入見、偏見にあたる)。



きれいな花がある
やっぱりこの花が一番きれい
いえにもこの花があればいい

……苦の始まり

■因縁(フツダの見たもの)

すべての存在は因縁より生じている

“因”は直接的な原因のこと、結果に対する直接的な力。

“縁”は因を扶けて、結果を生じせしめる間接的な力

すなわち、「もちつもたれつ」という関係。相対依存の関係をいう。

人

person in Japanese



The water



The sunshine



Flower



The seeds

The direct cause
“In”

The conditions
“En”



■諸行無常のおしえ

散ればこそいとど桜はめでたけれ

すべてのものは変化している ⇒ 万物は流転する

この世に恒常なるものは一つもない

⇒ あらゆる存在は
因縁によって作られた
ものである

諸行無常の教え



- ・この会社がいちばんいい
- ・この研究が一番いい
- ・このひとが一番いいひと
- ・この土木事業は有効である
- ・合意が形成されるのはいいこと
- ……というのはまちがい

■因縁の考えかた(縁起説)

因縁: 因は直接の原因・縁は間接の副因

①無明…相対的な存在を理解していない

②執着…絶対の存在へのとらわれ

③因縁…十二因縁(執着⇒苦悩のはじまり)

- ①無明、②行、③識、④名色、⑤六入、⑥触
⑦受、⑧愛、⑨取、⑩有、⑪生、⑫老死

一切の事物は、すべて相対依存の関係にある

「万物流転」(時間的)

「相対依存」(空間的)

■仏教の三大原理

思想の基本となる原理:「三法印」という

「仏の法印に三種あり。一に一切の有為法は念々として生滅してみな無常なり。二に一切の法は無我なり。三に寂滅は涅槃なり。」
(大智度論)

- (1) 諸行無常
- (2) 諸法無我
- (3) 涅槃寂静

これらは独立しているのではなく
一法印は他の二法印を含んでいる
(ひとつわかるとほかも自然とわかる)

結局「理性的自我」でものをみても正しく見えない

「一期一会」

生涯にただ一度まみえること。一生に一度限りであること。

一生懸命にいきるといふことの意味をあらわしている

■八正道

執着をなくための実践的方法

- ①正見 …正しい見解
- ②正思惟…正しい思慮
- ③正語 …正しい言葉
- ④正業 …正しい行為
- ⑤生精進…正しい精進
- ⑥正命 …正しい生活
- ⑦正念 …正しい思念
- ⑧正定 …正しい瞑想



最も重要とされる

- ・先入観をもたず分析する
- ・発想の転換をする

三毒に注意する
「貪り」「瞋り」「痴さ」

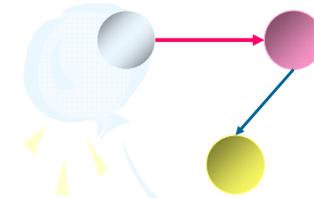
■執着がなくならないと

六道輪廻する

輪廻転生する ⇒ ビリヤードのよう
(snooker; 英)

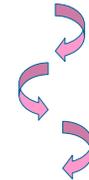


つぎの世界へ、エネルギーが伝わる



ぐるぐる廻る六つの世界

- ①地獄界
- ②餓鬼界
- ③畜生界
- ④阿修羅界
- ⑤人間界
- ⑥天上界



極楽
あかい

■四十九日間コース

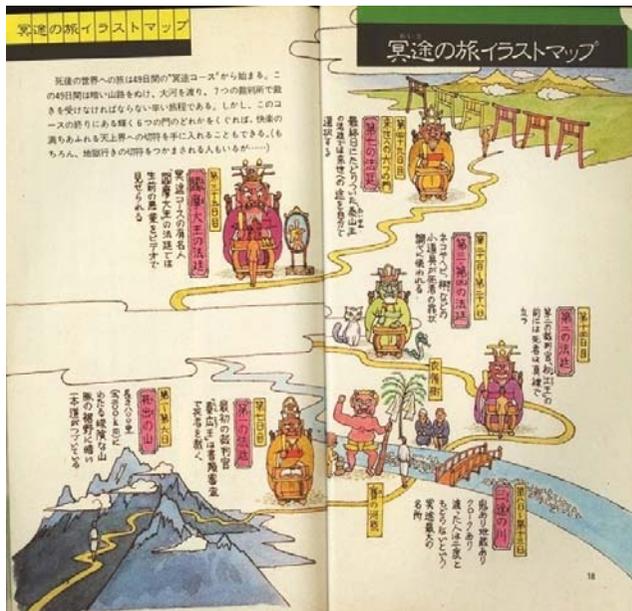
7日×7回の
裁判を受ける

第1回裁判の
あと「三途の川」
をわたる。

閻魔大王は35
日目に登場

49日目が最後の
裁判

来世へつながる
6つの門がある



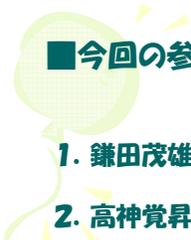
■まとめ

キリスト教

- ・絶対神
- ・キリスト(神の子)
- ・聖書(神との契約)
- ・神との約束を守る
- ・神 ≫ 人(原罪)
- ・神は絶対であり
「人は神にはなれない」
- ・西洋科学の思想的背景

仏教

- ・神はいない
- ・ブツダ(仏になったひと)
- ・仏典(ほとけの教え)
- ・悟りを得て仏になる
- ・人(仏性) ⇒ 仏
- ・仏はたくさんいて
「すべての人は仏になれる」
- ・東洋科学の思想的背景



■今回の参考文献

1. 鎌田茂雄: 仏陀の観たもの、講談社学術文庫、1977.
 2. 高神覚昇: 般若心教講義、角川文庫、1952.
 3. ひろさちや: 仏教に学ぶ八十八の知恵、PHP文庫、1987.
 4. ひろさちや: 死後の世界の観光案内、ごまビジュアル、1981.
 5. 渡辺照宏: 仏教第二版、岩波新書、1974.
 6. 三枝充應: 仏教入門、岩波新書、1990.
 7. 増谷文雄・梅原猛: 仏教の思想1 知恵と慈悲〈フツダ〉、角川書店、1978.
- 